

痛み評価スケール 選択→記録 5分フローシート

対象 → 尺度選択 → 記録 → 再評価 を A4 1枚で整理

患者 ID _____	評価日 _____
評価者 _____	場所 _____
主訴・痛み部位 _____	記録条件（安静 / 動作 / 夜間） _____

- 1 対象確認 前提
- 2 第一選択 主尺度
- 3 最小記録 記録
- 4 運用方針 定点
- 5 再評価 共有

1 対象・前提確認

まず、誰の・どの場面の痛みをみるかを固定

成人（自己申告） 小児（自己申告）
 自己申告困難 認知症・失語など
 神経障害性を疑う 慢性痛・生活影響が主

今日の場面 安静 動作時 夜間 処置前後

2 対象別の第一選択

主尺度を1本決め、必要時だけ補助尺度を追加

対象	主	補助
成人	NRS	VAS / VRS
小児	FPS-R	FLACC
観察	FLACC	-
認知症	PAINAD	Abbey
神経障害	DN4	地図化
慢性痛	BPI	PDAS

3 最小セット記録

数字だけで終わらせず、条件と行動を並べて残す

項目	所見 / 記録	条件 / 尺度
強さ	_____	NRS / FPS-R など
部位	_____	体表マップ
性状	_____	刺す・灼熱・しびれ
生活影響	_____	BPI / PDAS
行動・機能	_____	歩行・睡眠・家事

4 今日の運用方針

主尺度、定点、共有の型を先に決める

主尺度 _____
補助尺度 _____
定点（安静 / 動作時 / 夜間） _____
代表行動指標 _____
説明固定 _____
共有メモ _____

5 再評価・申し送り

前後差は、条件差と分けて共有する

介入前後 _____
固定条件 _____
次回確認 _____
申し送り _____
一言まとめ _____

使い方メモ まずは主尺度を1本に固定し、場面（安静 / 動作 / 夜間）をそろえます。慢性痛では生活影響や行動指標も1つ添えると、介入前後の意味が通りやすくなります。